

## 令和7年度「全国学力・学習状況調査」結果についてのお知らせ

佐賀市立三瀬小学校

4月に文部科学省による学力・学習状況調査を実施しました。全国的な義務教育の機会均等と水準向上のため、児童の学力や学習の状況を把握・分析し教育の改善を図るとともに、児童一人一人の学習改善や学習意欲の向上につなげることを目的としているものです。

結果を基に、本校児童の学力と学習状況の傾向を分析し、学力向上について対応策をまとめました。その概要についてお知らせいたします。

### ■ 調査期日

令和7年4月17日(木)

### ■ 調査の対象学年

小学校6年生児童

### ■ 調査の内容

(1) 生活習慣や学習環境等に関する質問調査

児童に対する調査	学校に対する調査
学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査 (例) 学習に対する興味・関心、授業内容の理解度、 基本的な生活習慣、家庭学習の状況 など	指導方法に関する取組や人的・物的な教育条件の整備の状況等に関する調査 (例) 授業の改善に関する取組、指導方法の工夫、 学校運営に関する取組、家庭・地域との連携の状況 など

(2) 教科に関する調査(国語、算数、理科)

- ①身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能等に関わる内容。
- ②知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力等に関わる内容。
- 調査問題では、上記①と②を一体的に問うこととする。

### ■ 教科に関する調査結果及び考察について

全国学力・学習状況調査は、小学6年生・中学3年生と限られた学年が対象であり、教科は国語、算数・数学、理科に限られています。さらに、出題は、各教科の限られた分野(問題)です。したがって、この調査によって測定できるのは、「学力の特定の一部」であり、「学校教育活動の一側面」であることをご了解の上、ご覧ください。

## ■調査結果及び考察

### 1 生活習慣や学習環境等に関する質問調査

#### (1) 結果

※「当てはまる」「どちらかと言えば当てはまる」「どちらかと言えば当てはまらない」「当てはまらない」のうち「当てはまる」「どちらかと言えば当てはまる」と肯定的に回答した児童の割合。

佐賀市学校教育ビジョンに関連する調査項目	本校 %	全国平均 %
学校に行くのは楽しいと思う。	100%	86.5%
将来の夢や目標を持っている。	100%	83.1%
自分には、よいところがあると思う	100%	86.9%
学級の友達との間で話し合う活動を通して、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気付いたりすることができている	100%	84.9%

上記の項目全てにおいて、肯定的な回答をした児童が 100%でした。本校の6年児童は、活気があり何事にも意欲的に取り組んでいます。男女の仲も良く、みんなで助け合い、協力することができます。それがこの質問調査の結果だけでなく、国語、算数、理科の教科の結果においてもよい影響を及ぼしていると考えられます。

家庭学習の様子に関する調査の項目	本校%	全国平均 %
学校の授業時間以外に、普段1日当たりどれくらいの時間勉強していますか。「3時間以上」	0%	12.1%
「2時間以上、3時間より少ない」	12.5%	12.8%
「1時間以上、2時間より少ない」	75.0%	29.1%
「30分以上、1時間より少ない」	12.5%	27.4%
「30分より少ない」	0%	12.9%
「全くしない」	0%	5.7%

来年からは中学生になることを考えると、毎日1時間以上の家庭学習に取り組む習慣は、今年度中には身に付けておく必要があると考えます。家庭学習を3時間以上勉強している児童はいませんでしたが、1時間以上は学習している児童が大多数を占めており、家庭学習の習慣はおおむね身に付いていると考えられます。

#### (2)改善に向けての取り組み

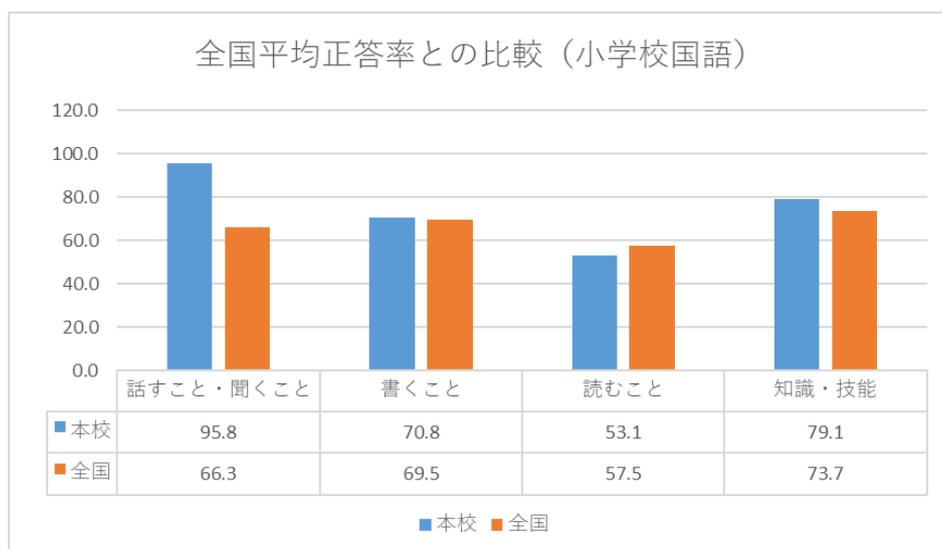
##### 【学校では】

- 主体的、対話的で深い学びの視点で授業改善を行いながら、子どもたちにとって「学校で学ぶことが楽しい。友達と話し合うことで理解が深まる。」と思えるような授業づくりをしています。
- 学校からは、学年に応じて、児童の学習内容の定着に必要な宿題を出しています。また、何の学習を、どれくらいするのかを自分で決めて取り組める子どもを育てるために、自主学習への取組も呼び掛けていきます。

##### 【ご家庭では】

- 1学期にお配りした「家庭学習の手引き」を参考に、規則正しい生活習慣や家庭学習の習慣が身に付くようご指導ください。学年に応じた学習時間のめやすを意識しながら、家庭学習の習慣を定着させるとともに、学習内容を自分で決めて、計画的に取り組む主体性を育てていきましょう。

## 2 国語



### (1) 結果

全国と比較すると、全体では全国平均正答率を 7.2 ポイント上回っています。内容別では「読むこと」は 4.4 ポイント下回っていましたが、「話すこと・聞くこと」は 29.5、「書くこと」は 1.3、「知識・技能」は 5.4 ポイント上回っていました。また、本校の無解答率をみると、全問題で 0% となっており、全員が全部の問題を解答していました。

### (2) 成果と課題

今回の調査で、「話すこと・聞くこと」においては全国平均正答率を大きく上回っていました。児童の授業中の様子をみると、どの児童も活発に意見を述べることで、友達の意見を最後まできちんと聞くことができています。また、日頃から授業の振り返りや行事作文等、文章を書く機会を多く設定しています。このことが、「話すこと・聞くこと」や「書くこと」において全国平均正答率を上回っていることや、無解答率 0% に成果として表れていると考えます。

「読むこと」においては、全国平均正答率を若干下回っていました。複数の資料の中から、必要な情報を取り出すことを苦手としている児童も多く、課題だと考えます。

### (3) 学力向上のための取り組み

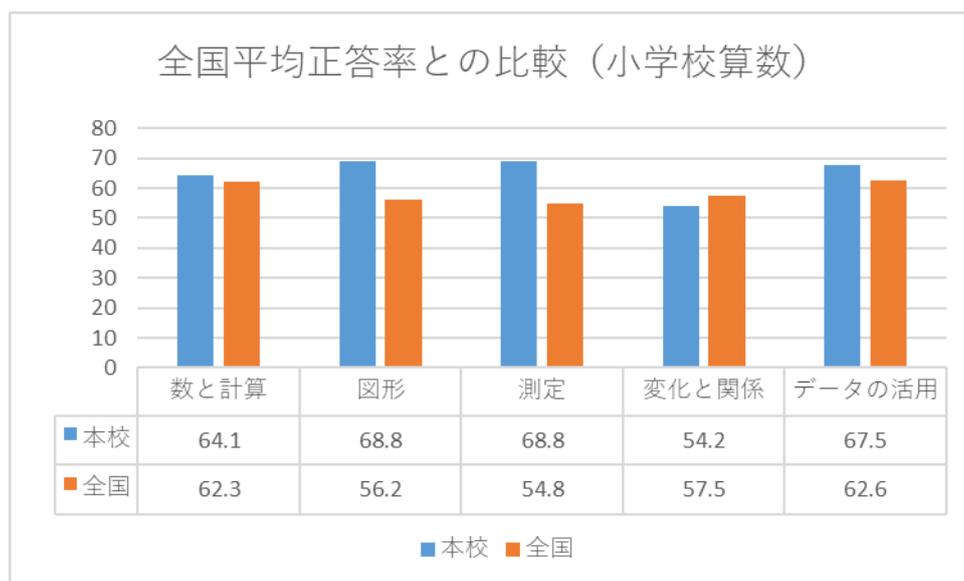
#### 【学校では】

- 文章と図表などを結び付けて読んだり、複数の資料を比較して読んだりする学習を通して主体的な学びの視点で授業改善を図り、児童の「読む力」を伸ばしていきます。
- 目的や意図に応じて、自分の考えとその理由を明確にしながら書く機会を増やしたり、インタビューや案内したりするなど、日常生活につながる言語活動を授業場面で設定します。

#### 【ご家庭では】

- 音読を大切にしていきましょう。お子さんの宿題の音読を聞く際に、正確に読めているかどうか、音読している文章と照らし合わせながら聞いてあげてください。繰り返し音読することで、文の構成、文節ごとの区切り、言葉の意味を理解することができ、要点や意図を捉えることにもつながります。
- 読書を大切にしていきましょう。様々なジャンルの本を読むことで、いろいろな表現や用語にふれ、語彙力を高めることができます。親子で市立図書館に定期的に行くことも、お子さんの読書習慣をつける上で有効だと考えます。

### 3 算数



#### (1) 結果

全国と比較すると、全体では全国平均正答率を6ポイント上回っています。領域別では「変化と関係」は 3.3ポイント下回っていましたが、「数と計算」は 1.8、「図形」は 12.6、「測定」は14、「データの活用」4.9ポイント上回っていました。また、本校の無解答率をみると、ほぼすべての問題で0%でした。

#### (2) 成果と課題

記述式の問題であっても、そのすべてにおいて本校の無解答率は0%でした。授業中、考えの理由を言葉や式を使って説明する活動を意識的に取り入れていることの成果が表れていると思います。「変化と関係」の問題では、「増量後の量」が「増量前の量」の何倍になっているかを表すことができるかどうかをみる問題の正答率が全国平均を下回っていました。割合は日常生活の中でも非常によく使うものなので、きちんと理解させることが重要であると考えています。

#### (3) 学力向上のための取り組み

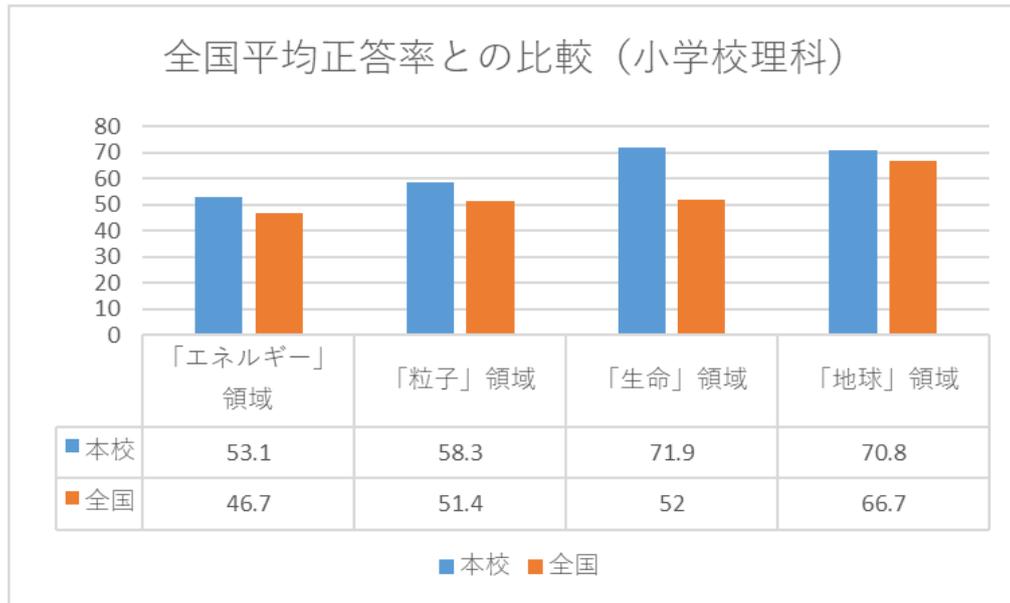
##### 【学校では】

- 式から答えを出すだけでなく、式の意味を考えさせたり、式に合う問題を作らせたり、式から生活場面を想起させたりしながら、式、絵や図、具体的場面を行き来させるようにします。
- 文章問題では、問題場面や問われていることが何かをつかむために、示された図に数字や言葉を書き込んだり、自分で図をかいたりする学習活動を取り入れます。児童一人一人に思考する時間を確保した後、考えを交流する場面を設定することで、説明する力も伸ばしていきます。

##### 【ご家庭では】

- 生活場面において、算数を使う機会を意識的に作ってください。ホールケーキを家族で切り分ける際には、分数や角度の学習が生かれます。市販の牛乳やお茶などの容器には異なるかさの単位が使われていることがあります。自分が飲んだ量がどれくらいなのか、量感を伴ったかさの学習ができます。算数が生活と結びついていることを知ることで、算数の便利さ、おもしろさが実感できると思います。
- 低学年での計算カードの学習は非常に重要です。1年時の繰り上がりのあるたし算、繰り下がりのあるひき算、2年時のかけ算九九は計算カードの式を見たら瞬時に答えられるようになるまで取り組んでほしいと思います。四則計算が速く、正確に解けることは、学年が上がると大きな強みになります。

## 4 理科



### (1) 結果

全国と比較すると、全体では全国平均正答率を10.9ポイント上回っています。領域別では「エネルギー」領域は6.4、「粒子」領域は6.9、「生命」領域は19.9、「地球」領域は4.1ポイントと全ての領域で全国を上回っていました。本校の無解答率をみると、全問題で0%となっており、全員が全部の問題を解答していました。

### (2) 成果と課題

今回の児童質問紙に、「これまでの生活の中で、自然の中で遊ぶことや自然観察をすることがありましたか」や「理科の勉強は得意ですか」、「理科の授業の内容はよく分かりますか」の質問がありましたが、この3つの質問全てにおいて肯定的な回答をした児童が100%でした。生活の中で、自然と触れ合う機会が多いこと、日頃の理科の授業で内容を理解していることが、今回の調査結果に表れていると思います。

### (3) 学力向上のための取り組み

#### 【学校では】

- 理科の学習過程を「事象提示→課題→予想→実験・観察→結果→考察→課題・・・」とし、一貫した学習指導を行うことにより、児童の思考力、判断力、表現力を向上させます。
- これまで同様、低学年から自然と触れ合う時間を多く取ります。また、理科の時間には、児童の「分かった!」と大切に、「理科が楽しい」「理科が分かる」授業を行っていきます。

#### 【ご家庭では】

- 理科が好きになるためには「不思議だな。おもしろいな。」と思う経験をさせることが有効です。星空を見上げて星座の話をしたり、水が氷になったり、水蒸気になったり変化する様子を観察したりすることで、習ったことと日常の現象を結びつけると理解が深まることもあります。
- 親子で自然に触れる、自然を楽しむ機会をもちましょ。その中で出てくる子どもたちの「なぜ?」を大切に、解決するために一緒に考えたり、図鑑等で調べたりしてみることで、探究心を育てていきましょう。